

日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学

教員自己PR一覧 2017 年度版

日本赤十字秋田看護大学 看護学部 看護学科		日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科
阿 部 範 子 安 藤 広 子 飯 島 純 夫 磯 崎 富美子 大 高 恵 美 大 山 一 志 荻 原 麻 紀 奥 山 朝 子 小 野 麻由子 北 林 真 美 木 下 彩 子 熊 地 美 枝 児 玉 悠 希 木 庭 淳 子 齋 藤 和 樹 佐 藤 紘 子 佐 藤 美恵子	佐 藤 美 佳 志 賀 <に子 菖蒲澤 幸 子 吹 田 夕起子 鈴 木 美 里 高 田 由 美 手 塚 裕 南 部 泰 士 新 田 純 子 萩 原 智 代 播 摩 優 子 宮 堀 真 澄 山 田 典 子 吉 田 倫 子 渡 部 加奈子 渡 邊 正 樹 渡 邊 美奈子	井 上 善 行 及 川 真 一 高 橋 美岐子 土 室 修 藤 沢 緑 子 湊 直 司

教員自己PR 一覧 2017 年度版発行のご挨拶

日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学教育研究開発センターは、本学における先駆的、独創的な教育研究の企画と、実施方法の開発を行い、本学の教育研究の向上に寄与することを目的に、平成26年4月1日付けで開設されました。業務としては、看護学部・短期大学の教育研究・開発、企画立案に携わり、これまで認定看護師教育課程の企画と運営に携わってまいりました。今年度はメンバーを新たにし、卒後教育の企画および実施立案に関することに重点を置き、センター運営をしております。

教育研究開発センターの最も重要な使命として、学生が看護職・介護職としての知識・技能を能動的に学び、ケアの倫理、および、専門職者としての他職種の倫理の理解に努められるよう取り組んでおります。そして“「生きる」を支える人”となれるよう、全学的な研究実践と研究交流を促進しております。教育を動かす原動力は教員であり、互いに何を得意とする人かを理解し、共同研究等の研究者同士の交流や、より主体的な研究活動の推進を図ることを目的に本誌を作成しました。

学内のみならず、学外の先生方とも交流や研究のアドバイスを得るきっかけとなることを期待しております。今後とも、本センター運営へのご理解とご協力をお願いいたします。



教育研究開発センター長
山田典子

学部・領域学科	看護学部 看護学科 母性看護学領域
職 名	准教授
氏 名	阿部範子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 研究業績 ・ 乳児の足の保温が、寝付きや睡眠の質に与える影響、第 29 回日本助産学会学術集会 ・ 母性看護学実習における看護技術の実施状況と課題第、57 回日本母性衛生学会学術集会 ・ 乳児の睡眠－覚醒リズム発達を目指した遠位－近位部温度勾配の検討、第 47 回日本看護学会 ・ 育児要因と乳児の寝つきとの関連－入浴・消灯時間が寝つきに与える影響－、第 36 回日本看護科学学会学術集会 ・ 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 C、乳児の健全な睡眠－覚醒リズム確立を促すための遠位－近位部温度勾配の応用、平成 24 年～27 年 ・ 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 C、遠位－近位部温度勾配の緩慢上昇誘発による、乳児の睡眠－覚醒リズム発達の促進、平成 27 年～30 年 ・ 「乳児の健全な睡眠－覚醒リズム確立を促すための遠位－近位部温度勾配の応用」、日本学術振興会科学研究費助成基盤研究 C 報告書 ・ Distal-proximal skin temperature gradient prior to sleep onset in infants 、Pediatrics International 地域貢献等 ・ 市町村こんにちは赤ちゃん訪問事業研修会講師 ・ 秋田県中学・高等学校性教育講座講師 ・ コンソーシアム秋田講師 ・ 秋田県母乳育児を勧める会 ・ 学会査読員	
アピールポイント等 出生後、乳児の概日リズムの形成は様々な環境要因の影響を受けながら急速に進みますが、リズムの発達が阻害された児では寝付きが悪かったり夜泣きを反復したりします。その為、育児者のストレスは多大となり、しばしば良好な母子関係が損なわれることがあります。そのような背景から、児の概日リズムの発達を促す介入の必要性が唱えられており、特に児の中樞神経系が急速に発達する生後 4 ヶ月までのアプローチが重要とされています。ヒトの眠気の誘発には末梢皮膚温度の上昇に伴う遠位－近位部温度勾配（distal-proximal skin temperature gradient : DPG）の上昇が相関することが解明されています。乳児においても同様の結果が得られており、現在、概日リズムが形成されていない乳児に対し、DPG をコントロールし上昇を誘発することにより概日リズムの発達を促すことを検証しています。 その他、住環境と家族・親子関係との関連に興味があり今後の研究を検討中です。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 介護福祉学科
職 名	学長・教授（看護学部）
氏 名	安藤 広子
論文	
1) 安藤広子, 野口恭子, 千田睦美, 遠藤良人, 蛸崎奈津子, ダガン・スーザン, 関屋一博. 岩手県立大学看護学部における国際交流活動の展望. 岩手県立大学看護学部紀要. 2015. 61-71. 2) 安藤広子. 大学教育における遺伝教育の検討; 電子媒体導入による連携教育をめざして. 科学研究 (基盤 B) 平成 22 年度から 26 年度 成果報告書. 2015. 3) 谷口千絵・木下千鶴・齋藤有希恵・安藤広子. デルファイ法による新生児蘇生法インストラクターのコンピテンシー. 日本助産学会誌. Vol. 27, No. 2. 2015. 214-225 4) 麻原きよみ・三森寧子・八尋道子・小西恵美子・百瀬由美子・小野美喜・安藤広子. 看護研究の倫理審査に関する考察. アメリカ合衆国の事例を踏まえて. 日本看護科学学会誌. Vol. 36. 2016. 80-84	
発表	
1) Hiroko Ando. JSGN(The Japanese Society of Genetic Nursing)report; Our Action And State the Certificate Genetic Nursing in Japan. 2016 ISONG World Congress. Ireland Dublin. 2) 佐々木幾美, 中島佳緒里, 磯崎富美子, 村瀬智子, 安藤広子, 他 5 名. 看護大学生の入学前の学習状況と入学後の能動的学修への取り組みに関する調査研究; 学生へのグループインタビューより. 第 18 回日本赤十字看護学会学術集会. 2017.	
著書 (分担著)	
1) 安藤広子. 助産倫理. 臨床助産テキスト・重要な周辺知識. メディカ出版. 2016. 34-39. 2) 安藤広子. 遺伝に関する支援. 助産業務要覧 第 2 版. 日本看護協会出版会. 2017. 118-123.	
その他	
1) 日本助産学会誌専属査読委員. 日本遺伝看護学会誌査読員. 日本看護科学学会誌査読員. 日本看護倫理学会査読員. 2) 日本看護倫理学会理事. 日本臨床遺伝カウンセラー学会評議員. 岩手臨床遺伝研究会世話人. 日本私立短期大学協会東北支部役員. 3) International Society of Nurses in Genetics (ISONG). Global Connections Advisory Committee. 4) Honor Society of Nursing Sigma Theta Tau International.	
アピールポイント等	
わが国の遺伝看護を遺伝学者の支援や米国・英国の遺伝看護・カウンセラーを招聘・共同でワークショップ等を開催して遺伝看護学会の設立や、遺伝専門医等関連職種との連携により遺伝カウンセラー制度の設立に参画をした。	
ISONG FOUNDER' S AWARD 2002. (In recognition of outstanding Nursing or Patient Education in Genetics.	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 専門基礎分野 大学院健康生活支援看護学分野地域看護学領域
職 名	教授（特任）
氏 名	飯島 純夫
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 【研究論文】 <u>飯島純夫</u>、後藤恭一：医療現場における騒音の現状と評価. 騒音制御、39 巻 4 号、90-96, 2015. 【学会発表】 五十嵐久人、<u>飯島純夫</u>：中小企業の男性正規雇用者と非正規雇用の QOL に影響を及ぼす要因の検討. 第 74 回日本公衆衛生学会総会、平成 27 年 11 月、長崎. 【社会貢献（講演）】 <u>飯島純夫</u>：平成 27 年度ファーストレベル研修、ヘルスケアシステム論「保健医療福祉の動向」、山梨県看護協会看護教育研修センター、平成 27 年 11 月 2 日 9:30-16:30、甲府. <u>飯島純夫</u>：平成 28 年度ファーストレベル研修、ヘルスケアシステム論「保健医療福祉の動向」、山梨県看護協会看護教育研修センター、平成 28 年 8 月 1 日 9:30-16:30、甲府.	
アピールポイント等 「生活習慣と健康」「非正規労働と健康」「病院環境と健康」などを研究テーマにしています。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 成人看護学
職 名	准教授
氏 名	磯崎 富美子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
H27. 6 ICUに配属となった中堅看護師のキャリア形成に関する能力 磯崎富美子 ＜第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会＞ H28. 3 A大学成人看護学実習における看護技術経験の実際－パイロットスタディとの比較 荻原麻紀、齋藤貴子、谷地和加子、柏木ゆきえ、磯崎富美子、宮堀真澄 ＜日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学紀要 No. 20＞ H28. 7 Nurse Practitioner(NP)の必要性和教育到達目標からみた能力および機能 日本 と米国・台湾のNP教育に関する意識調査から 森美智子、島内節、白畑範子、奥山朝子、磯崎富美子 ＜日本看護教育学会誌 Vol. 26 No. 1＞ H29. 3 A大学成人看護学実習における看護技術経験の経時的推移 齋藤貴子、荻原麻紀、新田純子、谷地和加子、磯崎富美子、渡部加奈子、北林真美、宮堀真澄 ＜日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学紀要 No. 21＞ ・秋田県保健師助産師看護師実習指導者講習会講師 ・教員免許状更新講習講師 ・能代山本医師会病院看護科看護研究研修会講師 ・秋田県立脳血管研究センター看護部職員研修「看護研究」講師	
アピールポイント等 ＜クリティカルケア看護に関する取り組み＞ クリティカルな状況に対応できる「観察・判断力」や「臨床技術力」を維持・開発していくために、絶対数の多いジェネラリストの機能を明確にし、その能力維持・開発のために望ましい教育システムの確立を目指す。 ＜がん手術療法看護に関する取り組み＞ 看護基礎教育課程では、成人看護学の中で「周手術期看護」「緩和ケア」などを教授していることが多かった。「がん治療・療養過程に焦点をあてた看護実践」教育という視点で「がん手術療法看護」を検討して行く。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 小児看護学
職 名	准教授
氏 名	大高 恵美
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
【研究論文】 ・ 志賀くに子, <u>大高恵美</u>, 新田純子, 吹田夕起子, 酒井志保, 佐藤美佳, 宮堀真澄, 安藤広子 (2017). 統合実習研修会報告「教員と指導者の連携強化をめざして - 実習指導の実態と課題から -」の報告. 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要, 21, 31-37. 【研究発表】 ・ <u>大高恵美</u>, 双生児の乳児期早期における睡眠覚醒リズムの同調性に関する研究 (2016). 第30回日本双生児研究学会. ・ 落合世津子, 内藤直子, <u>大高恵美</u>, 松川杏寧, 立木茂雄, 多胎育児ソーシャルキャピタル形成を促進する要素-多胎サークルメンバーのワークショップ「助けとなるもの」から- (2016). 第30回日本双生児研究学会. ・ 落合世津子, 内藤直子, <u>大高恵美</u>, 松川杏寧, 立木茂雄, 多胎育児ソーシャルキャピタル形成を促進する要素-多胎サークルメンバーのワークショップ「困っていること」から- (2016). 第57回日本社会医学会総会. ・ 落合世津子, 内藤直子, <u>大高恵美</u>, 松川杏寧, 立木茂雄, 多胎育児のソーシャルキャピタル形成を目指した交流の場と行政支援 (2016). 第75回日本公衆衛生学会. <地域貢献> ・ 高大連携授業：「高校生のための小児看護学 ～乳幼児の健康と安全～」 (2016) ・ 大学コンソーシアムあきた企画開発部会委員 (2016～) ・ 大学コンソーシアムあきた活動推進部会委員 (2016～) ・ 一般社団法人 日本多胎支援協会 理事 (2013～) <アピールポイント等> 自身の多胎育児の経験から、全国どこでも多胎育児家庭が安心して育児ができることをめざし、支援活動や調査を全国の仲間と共に取り組んでいます。また、未熟児や障がい児の家族に対する支援、児童虐待防止、アンガーマネジメントなどに関心があります。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 精神看護学領域
職 名	助教
氏 名	大山 一志
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） <学会発表> 1. 保健師が認識する産後の母親による乳幼児虐待のリスク要因, 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2017, 共著 2. 東日本大震災の行方不明者家族が民間信仰「イタコ」を訪れる動機, 第36回日本看護科学学会学術集会, 2016年, 共著 3. 退院前訪問指導のアウトカム評価における精神科経験年数との関連性, 第35回日本看護科学学会, 2015年, 共著 4. 小規模事業場におけるメンタルヘルス対策を促進・阻害する要因学術集会, 第35回日本看護科学学会, 2015年, 共著 <科研費> 1. 看護と警察の連携による認知症高齢者サポートシステムの構築, 挑戦的萌芽, 平成28年～平成30年 <地域貢献> 1. 日本精神科看護協会秋田県支部教育委員（平成28年4月～） 2. 秋田県立リハビリテーション・精神医療センターにおける研究指（平成27年4月～）	
アピールポイント等 これまで内容分析を主とした質的研究に取り組んできている。現在は、看護と警察の連携による認知症高齢者サポートシステムの構築をテーマに研究活動を行っている。近年、認知症高齢者の増加に伴い、認知症が絡む行方不明者数も年々増加し、警察官が認知症高齢者に関わるケースが増えてきている。そのため各都道府県の警察署では、警察官に認知症サポーター研修を義務付けるようになってきている。そこで、認知症看護を専門に学んだ認知症認定看護師が、警察官と連携することで、認知症高齢者へのサポート体制を強化できるのではないかと考えこの研究に取り組んでいる。なお本研究は、科研費（挑戦的萌芽3年）を取得している。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 成人看護学領域
職 名	講師
氏 名	荻原 麻紀
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
研究論文	
・荻原麻紀、齋藤貴子、谷地和加子、柏木ゆきえ、磯崎富美子、宮堀真澄(2015), A 大学成人看護学実習における看護技術経験の実際—パイロットスタディとの比較—, 日本赤十字看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要(20) ・齋藤貴子、荻原麻紀、新田純子、谷地和加子、磯崎富美子、渡部加奈子、北林真美、宮堀真澄(2016), A 大学成人看護学実習における看護技術経験の実際, 日本赤十字看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要 (21)	
研究発表	
・荻原麻紀、齋藤貴子、谷地和加子、柏木ゆきえ、磯崎富美子、宮堀真澄（2015）. A 大学成人看護学実習における看護技術経験の実際, 日本赤十字看護学会 ・荻原麻紀（2015）. 若年性認知症者と家族に与える家族支援と今後の課題に関する文献検討, 日本看護科学学会 ・荻原麻紀、新沼剛(2016). A 大学およびA 短期大学の災害救護訓練の取り組み, 日本赤十字看護学会 ・荻原麻紀、齋藤貴子、新田純子、谷地和加子、磯崎富美子、渡部加奈子、北林真美、宮堀真澄(2016), A 大学成人看護学実習における看護技術経験の実際～3 年間の経時的推移～, 日本看護科学学会	
地域貢献	
・陸前高田復興支援活動：日本赤十字北海道看護大学の教員と共に対象者に合わせた赤十字救急法の実施や健康相談を実施(2015) ・高大連携授業：「高校生のための成人看護学 大人の看護～突然、健康が脅かされたひとに寄り添う」（2015） ・高大連携授業：「高校生のための災害看護学：東日本大震災から災害看護を学ぶ」（2016） ・H27 年度雪国防災訓練＜避難訓練・防災教室＞ 上北手小学校 ・模擬講義：秋田県立大館鳳鳴高等学校 「『生きる』を支える人になる～看護って何？」(2017)	
アピールポイント等	
＜所属学会＞ 日本看護科学学会・日本看護研究学会・日本赤十字看護学会・日本看護診断学会 日本クリティカルケア看護学会・日本看護診断学会・日本公衆衛生学会・北日本看護学会	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 小児看護学 看護学研究科 健康生活支援看護学分野 小児看護学
職 名	教授
氏 名	奥山 朝子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 【研究論文】 ・亡くなった小児がん患児がもたらした級友への影響, 小児がん看護 10(1), pp23-29, 2015. ・復学する小児がん患児の学校生活における教師・養護教諭の指導上の困難と医療者に求める支援, 小児保健研究 75(3), pp350-356, 2016. ・Nurse Practitioner(NP)の必要性和教育目標からみた能力および機能：森美智子, 島内節, 白畑範子, <u>奥山朝子</u>, 磯崎富美子, 日本看護学教育学会誌 26(1), pp29-42, 2016. 【学会発表】 ・障がいを抱えた小児を療育する両親の心理社会的状況における合意形成過程への影響要因 第1報：阿部美里, <u>奥山朝子</u>, 日本小児看護学会, 第25回学術集会, 2015. ・障がいを抱えた小児を療育する両親の心理社会的状況における合意形成過程への影響要因 第2報：阿部美里, <u>奥山朝子</u>, 日本小児看護学会, 第25回学術集会, 2015. ・障がいを抱えた小児を療育する両親の心理社会的状況と価値観の変化：鈴木美里, <u>奥山朝子</u>, 日本小児看護学会, 第26回学術集会, 2016. 【地域貢献】 ・教員免許状更新講座講師	
アピールポイント等 ・小児がん患児や障がいのある小児と家族に関する研究を主に行っています。 ・小児看護の臨床において、新人看護師に求められている技術にも関心があります。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 老年看護学領域
職 名	講師
氏 名	小野麻由子
【研究論文】 1. 小野麻由子(2017).地域包括ケアシステムにおける看護職の在宅シフト型コンピテンシー尺度開発の試み. 青森県立保健大学大学院 健康科学研究科 博士論文. 2. 小野麻由子中規模療養型病院に従事する看護師のキャリア開発ラダーに対する意識調査. 老年看護学,20(1),P81-87. 3. 小野麻由子(2015).看護基礎教育終了のキャリアビジョンに影響する統合実習の学び. 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要,(19),35-43. 【報告書】 1. 日本赤十字秋田看護大学「キャリアデザイン提案集」報告書作成(2015) 【学会発表】 1. 小野麻由子,谷地和加子,夏原和美(2017).介護老人保健施設に従事する看護師の看護実践能力自己評価尺度の開発 -信頼性・妥当性の検証-.第 37 回日本看護科学学会学術集会（予定）. 2. 小野麻由子(2017).地域包括ケアシステムにおける看護職の在宅シフト型コンピテンシー尺度の開発～質問紙の作成～.第 21 回日本看護管理学会学術集会,示説発表,第 21 回日本看護管理学会学術集会抄録集 P262. 3. 小野麻由子,谷地和加子,夏原和美(2016)介護老人保健施設に従事する看護師の看護実践能力尺度の開発 -質問紙の作成-.第 20 回日本看護管理学会学術集会,示説発表,第 20 回日本看護管理学会学術集会抄録集 P321. 【地域貢献】 1. 日本赤十字秋田看護大学 認知症看護認定看護師教育課程「看護管理」 2014～2016. 2. 秋田県看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル「人材育成の基礎知識」 2013. 3. 秋田県看護協会 教育研修委員 2013～2016. 4. 能代市市民福祉部子育て支援課 能代市ファミリーサポートセンター養成講習会講師「子どもの心の発達と権利について」 2007～現在. 【自己 PR】 ・ 科研 基盤 C (2017 年度～2020 年度) 「在宅シフト後評価指標開発と看護職の在宅シフト支援能力のベンチマーク構築」 ・ キーワード：「看護管理」「コンピテンシー」「在宅シフト」「看護職のキャリア」	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 成人看護学
職 名	助手
氏 名	北林 真美
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 平成 28 年 第 17 回日本赤十字看護学会学術集会（示説）共同研究 『日本における心疾患患者への職場復帰・復職に関する文献的考察』 第 36 回日本看護科学学会学術集会 （示説）共同研究 『A 大学成人看護学実習における看護技術経験の実態～3 年間の経時的推移～』 日本赤十字秋田看護大学紀要（その他） 『「看護理論の評価」抄読会報告』 『A 大学成人看護学実習における看護技術経験表の経時的推移』	
アピールポイント等 臨床経験は、呼吸器、消化器、食道、胆肝脾、乳腺、甲状腺、心臓血管外科と多岐にわたります。救急、周手術期患者にくわえ、慢性疾患やがんを患う患者と家族にも深く関わってきました。 また中堅看護師として、新人教育、病棟管理や運営、委員会活動などの役割を担い、退院支援や多職種連携に向けた取り組みも行ってきました。 これらのことから、臨床看護を多方面から捉え、教育や研究に活用できると考えています。 研究では、患者の社会復帰に向けて病棟看護師に必要とされる役割などの視点から病棟看護師の専門性を広げ、多職種間や地域における看護師の役割の可能性について検討していきたいと思っています。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 広域看護学領域 公衆衛生看護学 在宅看護論
職 名	講師
氏 名	木下 彩子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 発表：第16回日本赤十字看護学会学術集会 示説 在宅 ALS 療養者・家族理解のための学生の学び 地域貢献等：日本 ALS 協会秋田県支部事務局員	
アピールポイント等 日本 ALS 協会秋田県支部の事務局員として、療養者やご家族と関わらせていただいています。ALS 在宅療養者は人工呼吸器を装着して療養生活を送っている方がほとんどで、喀痰吸引は日常的に欠かせない医療的ケアとなります。2012 年に「介護職員等による喀痰吸引等実施のための制度」（「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正）が施行され、社会的にも家族以外の者の吸引が認められましたが、県内の ALS 在宅療養者の療養生活の状況は大きく改善したとは言えない状況です。また、ALS 在宅療養者の喀痰吸引における介護職と訪問看護師の連携状況の実態は不明であります。地域包括ケアシステムの構築に向けて、ますます介護職と訪問看護師の連携の強化が必要とされるため、ALS 在宅療養者の喀痰吸引に関しての介護職と訪問看護師の現状を把握し、安全な喀痰吸引、安心できる療養生活を送るための介護職と訪問看護師の連携のあり方についての提案をしていきたいと考えています。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 精神看護学
職 名	講師（精神看護専門看護師）
氏 名	熊地 美枝
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） <医療観察法関連> ・第11回 日本司法精神医学会大会 発表「医療観察法病棟における常時観察をめぐる相互作用体験 常時観察を経験した入院対象者の語りから」（平成27年6月20日名古屋） ・司法精神医療等人材養成研修 講義「指定通院医療機関における 看護師の役割」（平成27年1月、2月） ・精神保健判定医等養成研修会 講義「医療観察法における看護の役割」（平成27年8月、平成28年7月） ・文部科学省：科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究活動スタート支援） 「医療観察法通院医療における重大な他害行為への援助者の構えと再発防止に向けた方略」 研究期間：平成29年～平成30年 <統合失調症の心理教育関連> ・日本精神保健看護学会第25回学術集会シンポジウム シンポジスト（平成27年6月） 「統合失調症発症早期の方へ 手帳を活用した心理教育の実践—SDMの推進を目指して—」 ・解説「統合失調症発症早期の方へ手帳を活用した心理教育の実践—SDMの推進を目指して—」 日本精神保健看護学会誌 24（2）pp.75 - 80, 平成27年12月 ・市民公開講座 専門家と考える統合失調症との付き合い方 「手帳を活用した心理教育でココロアップ！」（平成28年2月） <対人援助職の感情活用関連> ・NPO 地域ケアネットワーク ゆいまある 研修（平成28年1月） 社会福祉法人 東久留米市社会福祉協議会 フォローアップ講座（平成29年2月） 「異和感の対自化 ～感情を手がかりにケアに活かす～」 <その他> ・NPO 地域ケアネットワーク ゆいまある 研修（平成28年11月） 「こころのセルフケア」	

アピールポイント等

平成 29 年 4 月より、東京から秋田にきました。秋田には、精神看護専門看護師がいないのでこれから仲間を増やして、秋田の精神看護を盛り上げていける活動ができたら嬉しいです。

専門領域は、精神看護の中でも司法精神看護の一分野である医療観察法における看護です。

「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医療観察法）」は 2005 年 7 月に施行され、心神喪失、または心神耗弱の状態で重大な他害行為（殺人、放火、強盗、強姦、強制わいせつ、傷害）を行った人（以下、対象者）に対して、適切な医療を提供し、病状改善と再他害行為の予防、社会復帰の促進を目的とした制度が開始となりました。これまで、私は、医療観察法の入院医療、通院医療に携わりながら、医療観察法病棟での重大な他害行為への看護師の関わりや状態の悪化した対象者に常時付き添い関与しながら関わる常時観察などについて研究してきました。今後は、入院医療のように潤沢ではない人材配置の中で展開されている通院医療における看護についても探究し、医療観察法における看護の確立に向けた取り組みができればと考えています。統合失調症の方が、医療者と協働で治療選択に参加し、主体的に自己の状態をマネジメントできる手助けとしての手帳や心理教育を多職種チームで作ってきましたが、そのヒントとなる要素が私の中では医療観察法での経験だったといえます。専門性があると敬遠されがちな分野かもしれませんが、そこで行われている看護は、一般精神医療にも反映でき、且つ、精神看護の可能性を広げてくれるものと感じています。

また、看護師の感情活用にも関心を持っています。対人援助職である看護師は、対人援助場で感情の揺れを体験します。生じた感情をため込まず、受容し率直に表現することは、看護ケアの継続や充実につながりますが、感情活用に関した看護教育は十分とはいえない現状もあるように感じています。感情活用に関した看護教育の実施とそれに伴う研究活動を考えていけたらと思っています。

学部・領域学科	看護学部 看護学科 基礎看護学
職 名	助手
氏 名	児玉 悠希
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） ・現在の研究テーマ 「新人看護師の首尾一貫感覚（SOC）と big five 性格特性との関係」 ・興味のある研究テーマ 看護教育研究（パフォーマンス評価に関連するもの、シュミレーション教育等）、看護管理（看護経済学、経営学等に関連するもの）	
アピールポイント等 看護教育においては、「より実践的に」を意識した研究活動を日々検討しております。また、看護管理学分野においては、「より効率的に」を意識し、今までにない視点での研究を検討しております。どうぞよろしくお願い致します。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 がん看護学領域
職 名	講師（がん専門看護師）
氏 名	木庭 淳子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献など（2016～2017）	
【学会発表】 日本赤十字学会発表（2016. 7月） 「文献検討から見た中年期にあるがんサバイバーの病期によるスピリチュアルペインの特徴」 【地域貢献】 公開講座「がん看護に求められる看護師の役割」2016年10月 がん患者会「がん患者さんのスピリチュアルペインについて」2017年7月 がん患者会「がん患者さんの心のつらさについて」2017年12月 【所属学会】 ホスピス研究会、東京女子医科大学看護学会、日本がん看護学会、日本緩和医療学会、日本赤十字看護学会、日本スピリチュアルケア学会	
アピールポイント 学部では、「看護生命倫理」「エンドオブライフ」の授業を担当。 主に大学院がん看護学分野「がん高度実践看護師教育課程」で、がん専門看護師を育てることに従事している。 研究テーマは、慢性期にあるがんサバイバーのスピリチュアルペイン。 治療を終え、症状が落ち着いて日常生活を送る方々の心のつらさについて研究を行っている。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 基礎分野
職 名	准教授
氏 名	齋藤 和樹
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
【論文】 ・ 齋藤和樹（2017）. 日本赤十字社の看護師養成学校において災害時の「こころのケア」はどのように教育されているかに関する研究. 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要, No. 21, p. 13-22. ・ 佐藤沙織・齋藤和樹（2017）. 赤十字国内スタディーツアー「国際活動体験ツアー in Misawa 2016」の報告. No. 21, p. 63-74. 【発表】 ・ Kazuki SAITO（2016）. Psychosocial support in natural disasters by the Japanese Red Cross Society: Experiences of the Niigata Chuetsu Earthquake in 2004 and the Great East Japan Earthquake in 2011. The 6th Asian Congress of Health Psychology, July 23-24 in Yokohama. 【コラム】 ・ 齋藤和樹（2016）. 話が伝わる？伝わらない？. 秋田赤十字病院院内報「杉の子」, 第 474 号, p. 7. 平成 28 年 12 月 31 日. ・ 齋藤和樹（2015）. 良いところ探し. 秋田赤十字病院院内報「杉の子」, 第 468 号, p. 7. 平成 28 年 6 月 30 日. ・ 齋藤和樹（2015）. 赤十字の「こころのケア」と DPAT. 秋田赤十字病院院内報「杉の子」, 第 462 号, p. 7. 平成 27 年 12 月 31 日. 【地域貢献】 ①役職 ・ 社会福祉法人 秋田いなほ福社会 理事（～H27.10） ・ 全国赤十字社臨床心理技術者の会 会長（～H27.12） ・ 秋田県犯罪被害者等支援推進会議 委員（H25～） ・ 公益法人 秋田被害者支援センター 理事（H25～） ・ 秋田県被害者支援連絡協議会 参事（H10～） ・ 秋田県臨床心理士会 副会長（H3.4～） ②講演等 ・ 日本赤十字社第一ブロック災害救護訓練（H29.2.9）「グリーンケア-被災者遺族への対応-」（青森県青森市 青森大学）	

- ・常磐大学心理臨床センター公開研修会（H28. 11. 20）「災害時の「こころのケア」とは何か
-地震被害を中心に-」（茨城県水戸市 常磐大学）
- ・常磐大学心理臨床センター公開講演会（H28. 11. 20）「災害時の「こころのケア」-東日本大
震
災と新潟中越地震の経験から-」（茨城県水戸市 常磐大学）
- ・被害者支援ボランティア養成講座（H28. 9. 23）「支援者のメンタルヘルス」（秋田県秋田市
秋田福祉会館）
- ・秋田県地域の女性等活躍支援事業（H28. 9. 10）「よい人間関係を作るコミュニケーション
-認め合う関係づくりのために-」（秋田県秋田市 アトリオン）
- ・秋田家庭裁判所調査員研修（H28. 6. 15）「事例検討会」（秋田県秋田市 秋田家庭裁判所）
- ・秋田県警察学校（H27. 12. 9）「供述心理～被疑者の特性に応じた取り調べ」（秋田市 秋田
県検察本部）
- ・全国被害者支援ネットワーク質の向上研修下半期研修（H27. 10. 29）「支援者のメンタルヘ
ルス」（秋田県秋田市 メトロポリタンホテル秋田）
- ・秋田県消防学校専科教育救助科（H27. 10. 6）（H28. 8. 31）「参事ストレス」（秋田県秋田市
秋田県消防学校）
- ・湯沢雄勝養護教諭研究会講習（H. 27. 9. 10）「学校非常緊急時のこころのケア」（秋田県湯
沢市）
- ・秋田県警察学校被害者支援専科（H27. 9. 9）（H28. 10. 3）「被害者と PTSD」（秋田県秋田市
秋田県警察学校）
- ・日本赤十字社こころのケア指導者研修（H27. 6. 22）（H28. 12. 12）「救護員のこころのケ
ア」（東京都港区 日本赤十字社）

アピールポイント等

- ・災害時の「こころのケア（心理社会的支援）」に関心あります。
- ・事例検討が好きです。

2017. 6. 29

学部・領域学科	看護学部 看護学科 母性看護学
職 名	助教
氏 名	佐藤 絃子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
【研究論文】 1. （単著）助産介助時における助産師のストレス度～唾液ストレスマーカーを使用して～、母性衛生、第 57 巻第 4 号、Page590-597、2017.01 2. （共著）研修報告「看護理論の評価」抄読会報告(解説)、日本赤十字秋田看護大学日本赤十字秋田短期大学紀要、第 21 号、Page47-54、2017.03 【著書】 1. （共著）決定版!場面別超早わかり助産ケア技術【第 2 章）分娩期のケア 病棟編 場面分娩監視装置の装着と波形の判読(解説/特集)、ペリネイタルケア 2015 夏季増刊、Page138-142、2015.06 2. （共著）決定版!場面別超早わかり助産ケア技術【第 1 章）妊娠期のケア 外来編 場面分娩監視装置の装着と判読(NST) (解説/特集)、ペリネイタルケア 2015 夏季増刊、Page54-57、2015.06 【地域貢献】 1. 赤十字地域交流センター事業、赤十字防災ボランティアステーション事業（防災キャンプ） 2. 性教育講座（中学校・高等学校）	
アピールポイント等 助産師としての臨床経験を重ね、大学教員になりました。高度専門職業人である助産師がより健全なメンタルヘルスを保ち、優れた助産実践ができることを目指した研究を行っています。	

学部・領域学科	看護学部看護学科 老年看護学領域
職 名	講師
氏 名	佐藤美恵子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 実践報告 ・新田純子・鈴木美里・山田典子・安藤広子・鳥トキエ・大高恵美・齋藤貴子・佐藤美恵子他 3 名（2016）「看護理論の評価」抄読会報告．日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要、第 21 号 47-54、 発表 ・佐藤美恵子（2016）．高齢者疑似体験の装具を活用した老年看護学演習の効果．第 36 回日本看護科学学会学術集会 ・佐藤美恵子（2015）．老年看護学実習における受け持ち患者情報を活用した演習取り組みの効果．第 18 回北日本看護学会学術集会 ・高田由美・佐藤恵美子・小野麻由子・吹田夕起子・尾岸恵三子（2015）．高齢者理解における学生の学びの視点に関する研究 第 2 報．第 35 回日本看護科学学会学術集会 地域貢献 ・日本赤十字社生活支援講習会 日本赤十字秋田県支部 生活支援講習 指導員（平成 27 年度、平成 28 年度） ・高大連携授業（平成 27 年度、平成 28 年度） その他 ・佐藤美恵子 平成 27 年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学金基金」学長裁量費による研究支援事業 秋田県過疎地域に住む高齢者世帯の災害に対する備えと対策 ・佐藤美恵子 平成 28～29 年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」 秋田県過疎地域に住む高齢者世帯の災害に対する備えと対策	
アピールポイント等 老年看護学教育に関する研究 高齢者の災害に関する研究	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 基礎看護学領域
職 名	講師
氏 名	佐藤 美佳
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） <研究論文> 1. 統合実習研修会「教員と指導者の連携強化をめざして ―実習指導の実態と課題から―」の報告 日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学紀要, 21, 31-37 発表年月：平成 28 年 3 月 発表者：志賀くに子, 大高恵美, 新田純子, 吹田夕起子, 酒井志保, 佐藤美佳, 宮堀真澄, 安藤広子（共著） <学会発表> 1. 看護学生の学習動機づけに影響を及ぼす要因に関する研究 ―私立 A 看護大学と国公立大学 3 校との男女別および学年間比較による検討― 日本看護研究学会第 41 回学術集会：示説発表 発表年月：平成 27 年 8 月（広島県広島市） 発表者：佐藤美佳（共著） 2. 学習動機づけに影響を及ぼす要因と PBL テュートリアル教育との関連 日本看護研究学会第 41 回学術集会：示説発表 発表年月：平成 27 年 8 月（広島県広島市） 発表者：佐藤美佳（共著） 3. 看護学生の自律的動機づけと PBL テュートリアル教育に関する研究 ―A 看護大学の学年間比較による検討― 日本看護学教育学会第 25 回学術集会：示説発表 発表年月：平成 27 年 8 月（徳島県徳島市） 発表者：佐藤美佳（単著） 4. 看護基礎教育における災害看護教育に関する研究 ―災害看護学構築に向けた全国実態調査結果（第 1 報）― 日本災害看護学会第 17 回年次大会：示説発表 発表年月：平成 27 年 8 月（宮城県仙台市） 発表者：佐藤美佳（単著） 5. 看護学生の他者軽視傾向と学習動機づけおよび友人関係への動機づけとの関連 日本看護研究学会第 42 回学術集会：示説発表 発表年月：平成 28 年 8 月（茨城県つくば市） 発表者：佐藤美佳（単著） 6. 看護基礎教育における放射線看護教育に関する研究（第 1 報）―全国実態調査による教育カリキュラムの教育課程別比較― 第 5 回日本放射線看護学会学術集会：一般口演 発表年月：平成 28 年 9 月（東京都） 発表者：佐藤美佳（単著）	

7. 看護基礎教育における放射線看護教育に関する研究（第2報）ーテキストマイニングによる教育内容の分析ー
第5回日本放射線看護学会学術集会：一般口演
発表年月：平成28年9月（東京都）
発表者：佐藤美佳（単著）
8. テキストマイニング分析による災害看護の教育内容 ー全国実態調査による教育課程別比較ー
第36回日本看護科学学会学術集会：示説発表
発表年月：平成28年12月（東京都）
発表者：佐藤美佳（単著）
9. Implementation Status of Disaster Nursing Education in Japanese Basic Nursing Education
The 20th EAFONS in Hong Kong :Poster presentation
発表年月：平成29年3月（香港）
発表者：Mika Sato, Yoshiko Nishizawa（共著）

<外部資金等>

1. 看護基礎教育における災害看護教育および放射線看護教育に関する研究
文部科学省：科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究活動スタート支援）
研究期間：平成26年～平成28年
研究代表者：佐藤美佳
2. 放射線災害看護を含めた看護基礎教育における災害看護教育プログラムの構築
文部科学省：科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究C）
研究期間：平成28年～平成31年
研究代表者：佐藤美佳

<地域貢献>

1. 日本赤十字国際人道研究センター 研究員（H28年4月～ 現在）
2. 青森県看護協会 「はっち まちの保健室」協力員として健康相談活動（H25年～現在）
3. 青森県看護協会 災害支援ナース登録中（H23年1月～ 現在）
4. 社会福祉法人 ぶさん会 理事（H27年10月～ 現在）
5. 高館地区（八戸市）保健協力員として健康相談ボランティア活動（H20年～ 現在）
6. 八戸市レクリエーション協会会員としてボランティア活動（H25年4月～ 現在）

<所属学会等>

- ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会 ・日本放射線看護学会 ・日本看護学教育学会
- ・日本災害看護学会 ・日本集団災害医学会 ・日本混合研究法学会 ・日本赤十字看護学会
- ・日本家族看護学会 ・医療放射線防護連絡協議会 ・北日本看護学会
- ・全国障害者問題研究会（青森県支部）

アピールポイント等

学部・領域学科	看護学部 看護学科
職 名	教授
氏 名	志賀 くに子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 実践報告 ・秋田県内の中学生・高校生を対象とした性教育講座の実際（日本赤十字秋田看護大学紀要・日本赤十字秋田短期大学紀要 20 号） 発表 ・A 看護系大学 3 年次生の臨地実習早期における対人関係構築する上での困難感（第 26 回日本看護学教育学会学術集会） ・Implementation of specialized perinatal nursing skills in College A curricula (31 ICM Triennial Congress Toronto Canada) 地域貢献 ・「性に関する指導教室」、「性教育講座」、「思春期講座」講師－秋田県内中学校 1～3 年生、高校 1～3 年生対象 ・健康・性に関する教育研修会講師－秋田市小・中学校教員対象 ・平成 28 年度エイズ対策における普及啓発事業「性に関する指導推進のための委員会」委員	
アピールポイント等 1. 自分の研究・教育で現在行っていること、興味があること 1) 統合実習等、大学側と臨床側の連携強化について 連携の実態としては、どのような状況なのだろう 臨床側は学生の存在をどのように受け入れているのだろう 2) 母性看護学実習における看護技術経験について 看護技術の経験と学生の自己到達度について 短期間の実習で看護技術経験をより多くするためにはどうしたらいいのだろう 3) 中学生、高校生を対象とした性教育講座のあり方について 中学校や高校が求める性教育とはなんだろう どのような効果があるのだろう 2. 自身が教えられること、共同でできる研究など 1) 性教育の考え方やあり方 2) 臨地実習指導のあり方	

学部・領域学科	看護学部基礎看護学領域
職 名	准教授
氏 名	菖蒲澤幸子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） （論文） ・ A病院新人看護職員の1年間の看護技術の到達状況, 日本赤十字秋田看護大学日本赤十字秋田短期大学紀要 N021, 23-30, 2016. (共著, 筆頭) ・ 看護大学4年次統合実習指導の問題点と解決策 (共著) 盛岡赤十字病院紀要, Vol24. N01, P11-17, 2015. （発表） ・ 新入職者への「病院における個人情報保護」講義の評価. (共著) 第16回医療情報学会看護学術大会論文集 P163-164, 2015. ・ A病院看護職の看護研究に関する実態と研究に対する意識. (共著) 第46回日本看護学会(看護教育), 2015年8月. ・ 看護研究の院外発表経験の有無と研究の意欲及び研究実施過程の困難感との関連. (共著, 筆頭) 第19回日本看護管理学会学術集会, 2015年8月. ・ 過去5年以内に看護研究を行った看護師による研究委員会が企画している研修の評価と研究をする上での制約. (共著) 第19回日本看護管理学会学術集会, 2015年8月. ・ 現場の業務に役立てる! Q & A 重症度、医療・看護必要度 (連載) 第1回、第2回、第3回、第5回. 看護主任業務(隔月刊誌) 日総研出版. 2015年4月～2016年3月.	
アピールポイント等 「看護情報学」は、比較的新しい学問領域です。日本看護学会の領域で見ると、「看護倫理」「感染看護」「国際看護」とともに、コアの部分に位置づけられ。看護学の各領域に関連する学際的な学問領域です。現在は、日本医療情報学会看護部会委員として「看護管理者に必要な看護情報能力とは」を検討するワーキンググループを立ち上げて活動しています。 平成19年に日本看護協会認定看護管理者の認定を受けています。平成28年度～秋田県看護協会セカンドレベル「ヘルスケアサービス管理論」、岩手県看護協会ファーストレベル「看護情報論」の講師をしています。また、看護研究指導を県外の2つの病院で行っています。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 老年看護学領域
職 名	准教授
氏 名	吹田 夕起子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 吹田夕起子・福井幸子・矢野久子・前田ひとみ・細川満子（2017）．地域包括ケアを担う医療従事者を対象とした感染症対策研修会の有効性と課題．日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要，21，39-45. 志賀くに子・大高恵美・新田純子・吹田夕起子・酒井志保・佐藤美佳・宮堀真澄・安藤広子（2017）．統合実習研修会「教員と指導者の連携強化をめざして－実習指導の実態と課題から－」の報告．日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要，21，31－37. 木村ゆかり・吹田夕起子・長内志津子・福岡裕美子（2017）．看護学生のおむつ排泄体験による意識の変化とおむつ排泄イメージの変化．青森県立保健大学雑誌，17，29-36. 吹田夕起子（2017）．在宅・施設ケアに求められるケアマネジメント．中島紀恵子（監・編），認知症の人びとの看護 第3版（pp.111-120）．医歯薬出版. 福井幸子・吹田夕起子・細川満子・矢野久子・前田ひとみ・増田満啓（2016）．訪問看護における針刺し予防のための携帯用医療廃棄物容器の開発．日本人間工学会誌，52（supplement），12-13. 高田由美・佐藤恵美子・小野麻由子・吹田夕起子・尾岸恵三子（2015）．高齢者理解における学生の学びの視点に関する研究 第二報．第35回日本看護科学学会学術集会講演集，476. 吹田夕起子（2015）．認知症ケアの研修資料&確認テスト ②認知症の中核症状とBPSD．真・介護キャリア，12（5），101-119.	
アピールポイント等 キーワード：老年看護学教育、高齢者施設ケア、認知症看護、感染予防 主な研究活動 ・老年看護学教育に関する研究 ・介護サービス提供者の教育・研修等に関する研究 ・介護家族、認知症看護に関する研究 ・訪問看護における針刺し予防のための携帯用医療廃棄物容器の開発	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 小児看護学
職 名	助教
氏 名	鈴木 美里
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） （発表） 1. <u>鈴木美里</u>、奥山朝子（2015.7.26）. 障がいを抱えた小児を養育する両親の心理社会的状況における合意形成過程への影響要因第1報. 日本小児看護学会第25回学術集会 口演、千葉. 2. <u>鈴木美里</u>、奥山朝子（2015.7.26）. 障がいを抱えた小児を養育する両親の心理社会的状況における合意形成過程への影響要因第2報. 日本小児看護学会第25回学術集会 口演、千葉. 3. <u>鈴木美里</u>、奥山朝子（2016.7.24）. 障がいを抱えた小児を養育する両親の心理的状況と価値観の変化. 日本小児看護学会第26回学術集会 示説、大分.	
アピールポイント等	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 老年看護学 看護学研究科 食看護学
職 名	教授
氏 名	高田 由美
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
【研究論文】	
1. 尾岸恵三子, 夏原和美, 高田由美. (2016). 「3・1・2 弁当箱法」の実践的活用—看護学生・地域住民の適量食事摂取の目安形成過程の構造化・評価, 平成 23 年度～平成 26 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果報告書第 1 報 21—30.	
2. 高田由美. (2016). 成人男女の昼食前後の空腹感および満腹感の実態—V A S の活用の可能性. 日本赤十字看護学会誌,	
3. 高田由美, 尾岸恵三子, 藤井博英, 高橋ゆかり. (2016). 認知症看護認定看護師教育課程における教育と授業評価の分析. 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要, 20, 41-48.	
【学会発表】	
1. 尾岸恵三子, 夏原和美, 高田由美, 猪熊京子, 三輪生子, 柏木恵子. (2015). 「3・1・2 弁当箱法」演習の有効性に関する研究. 東京女子医科大学看護学会.	
2. 高田由美, 佐藤美恵子, 小野麻由子, 吹田夕起子, 尾岸恵三子. (2015). 高齢者理解における学生の学びの視点に関する研究 2 報.	
3. 看護師の認知症の人に対する気づきの変容プロセス —認知症看護認定看護師コースの臨地実習に焦点を当てて. (2016). 日本赤十字看護学会学術集会.	
4. 高田由美, 北埜さつき, 高橋ゆかり, 佐藤美加子, 鈴木智恵子. (2016). 老年看護 C N S ・認知症看護 C N 合同企画 認定看護師教育課程の活動紹介. 老年日本老年看護学会第 21 回学術集会.	
【その他】	
高田由美. (2015). 「患者さんの真のプロフィールを知るために」第 2～5 回. メディバンクス、ナースマガジン.	
高田由美. (2015). すぐに使える！ワンランク上の教育・研修ツール 認知症および認知症ケア編 認知症ケアの研修資料&確認テスト①認知症の疾患分類とそれぞれの特徴、真・介護キャリア 11・12 月号、p. 95—100. 日総研、真・介護キャリア	
【地域貢献】	
1. 平成 27 年度日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学赤十字地域交流センター公開講座「認知症の正しい理解と予防」担当	
2. 平成 28 年度日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 公開講座Ⅱ「認知症の手がかりと対応」担当	
【自己 P R】	
現在、一番関心を持ち取り組んでいるのは事例研究です。現在は介護老人保健施設の要介護高齢者の栄養状態を維持するためのケアにフォーカスを当てて、データ収集中です。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科
職 名	准教授
氏 名	手塚 裕
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
（著書） 1. シリーズ「特別の教科 道徳」を考える, 共著, 平成 28 年 3 月, 北大路書房, 第 3 巻『中学校における「特別の教科 道徳」の実践』第 10 章「開発的生徒指導を担う道徳教育」, pp. 139～151. 2. 『新教科「道徳」の理論と実践』（玉川大学教職専門シリーズ）, 共著, 平成 29 年 3 月, 玉川大学出版部, 第 4 章『「道徳科」の指導』第 5 節「生徒指導に取り組む中学校の道徳教育」, pp. 161～170.	
アピールポイント等 学校には様々な学級がある。明るくしつとりとした学級もあれば、問題行動が日々発生している殺伐とした学級もある。担任が替われば良くも悪くも学級は一変する。「それはなぜか」を道徳授業や生徒指導場面における教師の教育観・指導観から考えてきた。 近年は、学級集団の質的発達と個人の道徳性の発達を促す学級づくりを模索している。「私」が「私たち」という広がりを持つようになる教育活動を集団の中にどのように組織し、具現化するかを考えている。 現在は、これから保健室の先生となる養護教諭が身につけておくべき教育観・指導観にまで射程を広げている。	

学部・領域 学科	看護学部 看護学科 公衆衛生看護学	
職 名	准教授	
氏 名	南部 泰士	

業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4-H29.3）

<研究論文>

南部泰士. (2017). [認知症サポーター養成講座受講による看護学生の認知症高齢者に関する意識変化](#). 厚生の指標, 64(6), 21-28.

南部泰士, 伏見進. (2016). [秋田県南部にある地域医療支援病院にて脳ドックを受診した人の脳卒中発症確率\(リスクスコア\)と生活習慣\(リスク因子\)に関する研究](#). 日本農村医学会雑誌, 65(4), 747-757.

渡邊正樹, 柳屋道子. (2016). [高次脳機能障害者の生活を共にするきょうだいへの影響に関する研究 現状と看護の方向性](#). 日本農村医学会雑誌, 65(1), 55-61.

(研究キーワード)

- ・高齢者の介護予防を目的とした生活機能と健（検）診評価項目に関する研究
- ・農村地域で暮らす高齢者の生活機能と社会的相互扶助に着目した研究

アピールポイント等

- ・秋田県横手市出身、平鹿総合病院看護専門学校、秋田大学医学部保健学科卒業後、平鹿総合病院保健福祉活動室（秋田県農村医学研究所）（秋田県横手市）にて保健師活動に従事
- ・鹿児島大学医学部保健学科地域看護・看護情報学講座を経てAターン
- ・これまで公表している研究論文は、横手市の地域住民の皆様、鹿児島県の保健師の皆様、所属する大学の学生の皆様を対象としております。
- ・秋田と鹿児島の文化や生活習慣、感性の違いなど、肌で感じた体験を、教育・研究活動に転換し、今後も活動していきたいと思っています♪



桜島噴火による降灰



オープンキャンパス

学部・領域学科	看護学部 看護学科
職 名	准教授
氏 名	新田 純子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
<u>研究論文等</u> 1. 新田純子. 脳死ドナーをケアする看護師の経験－脳死ドナーケアの発動力が進展するプロセス－. 日本ヒューマンケア科学学会誌 Vol. 8, No1, P. 11～P. 26. 平成 27 年 3 月（研究報告） 2. 三上ふみ子, 新田純子. 「看護学生の自己血糖測定技術演習から学びの分析－患者役の経験から具体的な患者指導を導き出すプロセス－」. 青森中央学院大学研究紀要第 26 号 P29～38. 平成 28 年 9 月（研究ノート） 3. A 大学成人看護学実習における看護経験の経時的推移. 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要第 21 巻 P. 55～P. 61. 平成 29 年 3 月（実践報告） 4. 「看護理論の評価」抄読会報告. 新田純子, 他 10 名. 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要第 21 巻 P. 31～P. 37. 平成 29 年 3 月（実践報告） 5. 統合実習研修会報告－臨床実習指導における臨床指導教員との連携強化をめざして. 志賀くに子, 大高恵美, 新田純子, 他 5 名. 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要第 21 巻 P. 31～P. 37. 平成 29 年 3 月（実践報告）	
<u>学会発表</u> 1. A 大学成人看護学実習における看護技術経験の実態～3 年間の経時的推移～. 荻原麻紀, 谷地和加子, 新田純子, 他 5 名. 第 36 回日本看護科学学会学術集会. 平成 28 年 12 月（示説）	
<u>アピールポイント等</u> 質的研究方法に関心があります。才木・クレイグヒル・滋子先生のグラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）を科目履修し、ゼミに参加して分析手法を学んだのがきっかけです。 GTA は、社会的役割の間の相互作用のプロセスに焦点を当てて人間の行動を探求する理論を取り入れた方法論です。私の研究を例にすると、脳死ドナーをケアする看護師の経験の構造を明らかにするために、看護師の役割について観察した（インタビュー）データを分析しました。 学内の質的研究に関心がある先生方と、年に 5～6 回のペースで質的研究の抄読会を継続しています。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 在宅看護論・公衆衛生看護学
職 名	助教
氏 名	萩原 智代
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 萩原智代, 佐々木久長, 夏原和美（2015）． 秋田県における短期入所生活介護（ショートステイ）の施設特性の実態と長期利用に関連した要因， 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要, (20), 1-10 萩原智代（2015）． 短期入所生活介護（ショートステイ）利用者の利用形態に関連する要因， 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 博士前期課程修士論文， 2015 萩原智代（2015）． 短期入所生活介護の利用形態と施設特性との関連， 平成 26 年度「学校法人日本赤十字学園研究基金」学内研究費補助 報告書 秋田市長寿福祉課主催傾聴ボランティア育成講座講師（継続中） 秋田県看護協会 ファーストレベル教育課程研修講師（継続中） 秋田県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会 副委員長（継続中） 仙北市保健課主催ふれあいサポーター（ゲートキーパー）養成講座講師（継続中） ショートステイ・フォーラム for あきた実行委員（継続中） 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 合同教務委員会主催 地域包括ケアシンポジウム 企画・運営（平成 27 年度～）	
アピールポイント等 現場実践としては、都内総合病院での臨床経験、秋田市保健所・秋田市内地域包括支援センター保健師の経験があります。地域包括支援センターでの経験が長いので、地域住民個人への支援やケアマネジメントのほか、地域における社会資源のニーズや、地域包括ケアシステムの構築に向けての取り組みについても興味を持っています。 これまでは全国と比較して突出して多い秋田県の短期入所生活介護の実態について研究を行ってききましたが、今後は医療機関から在宅へ移行していく高齢者に対する支援について焦点をあてて研究を行っていく予定です。 教育においては、多職種連携を行いながら住民の支援を行うことの醍醐味を学生に伝えたいと思い、日々仕事をしています。 興味を持たれた方がおりましたら、お気軽にお声掛けください。よろしくお願いいたします。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 在宅・公衆衛生看護学
職 名	助教
氏 名	播摩 優子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） <学会発表> 1. 播摩優子，備前由紀子，佐々木久長 「『自殺は容認できないが理解できる』態度に関連する要因」 第39回日本自殺予防学会総会 平成27年9月 2. 播摩優子，備前由紀子，佐々木久長 「高齢者の自殺に対する反応－高齢者と若年者の特徴」 第7回国際自殺予防学会アジア・太平洋地域大会／第40回日本自殺予防学会総会 平成28年5月 3. 播摩優子，萩原智代，佐々木久長，金子善博，藤田幸司，本橋豊 「自殺に対する反応に関連する要因の年代別分析」 第75回日本公衆衛生学会総会 平成28年10月 <地域貢献> 1. さきがけいのちの巡回県民講座（講師） 秋田魁新報社が平成25年10月より秋田県内25市町村すべてを巡回講演しながら自殺予防の啓発を行うこと目的に講演会を実施。 ・平成27年度：男鹿市 ・平成28年度：羽後町、大仙市、東成瀬村、にかほ市 ・平成29年度：能代市 2. 平成28年度大仙市メンタルヘルスサポーターの会フォローアップ研修会（講師） 3. 平成29年度大仙市メンタルヘルスサポーター養成講座（基礎編）（講師） 4. 平成29年度八郎潟町心といのちの講座（講師）	
アピールポイント等 前職の能代市では、平成17年度から市の自殺予防対策に取り組んでおり、平成23～25年度まで3年間、担当保健師として自殺予防に関わってきました。中でも、メンタルヘルスサポーター養成（地域においてサロン活動を行いながら、傾聴・寄り添い等の活動を行うボランティア等）に最も力を入れてきました。全国一自殺率が高い秋田県において、今後ますますその活動が期待されます。そのため、メンタルヘルスサポーターの皆様が今後もモチベーションを高めながら、安心して活動を行うことができるように、研究を活かしながら支援していきたいと思っております。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 成人看護学
職 名	教授
氏 名	宮堀 真澄
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
研究論文 1. A 大学成人看護学実習における看護技術経験の実際－パイロットスタディとの比較－ 日本赤十字秋田看護大学日本赤十字秋田短期大学紀要（20） 2. A 大学成人看護学実習における看護技術経験の経時的推移 日本赤十字秋田看護大学日本赤十字秋田短期大学紀要（21） 3. 統合実習研修会「教員と指導者の連携強化をめざして－実習指導の実態と課題から－」 の報告 日本赤十字秋田看護大学日本赤十字秋田短期大学紀要（21） 地域貢献 1. 大学コンソーシアムあきた運営委員会委員 2. 秋田県教員免許状更新講習推進協議会委員 3. 平成 29 年度秋田県教員育成協議会委員	
アピールポイント等	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 大学院看護学研究科
職 名	教授
氏 名	山田 典子 (看護学博士)
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等 (H27.4～H29.3) <u>Noriko Yamada, Makiko Kato.</u> (2015). An introspective approach to Nursing Intimate Partner Violence victims in Japan. Journal of Forensic Nursing No.3, Vol.11 issue4, pp232-239 <u>山田典子</u>, 吉池信男, 田仲里江, 鈴木朗子, 櫻井繭子, 中村恵子(2015). 親密な関係にある者からの暴力的事犯被害者への支援方策に関する検討 ～警察官と医療機関の連携体制の課題について～. 日本フォレンジック看護学会誌, 査読有, 1(2), 50-59, 2015 <u>山田典子</u>(2015). フォレンジック看護への期待～セーフティプロモーションの実践より～. 日本フォレンジック看護学会誌, 査読有, 1(2), 108-111, 2015 <u>山田典子</u>(2015). 離婚・ひとり親の女性が抱えるメンタルヘルスの現状と課題. 産業精神保健, 査読なし, 23, 28-32, 2015 <u>Noriko Yamada, Akiko Yokokawa, Daisaku Kashiwakura, Masumi Muramatsu, Keiko Nakamura</u>(2015). Changes in Self-Rated Basic Social Skills and Basic Nursing Attitudes of Newly Graduated Nurses. 3rd Annual International Conference on WNC2015, 81-86. <u>Noriko Yamada, Genki Yamada Nobuo Yoshiike, Rie Tanaka</u>(2015). Investigation of the supporting measures available to the victims of violent crime perpetrated by intimate persons. The International Conference on Forensic Nursing Science and Practice, 28-31 Oct 2015. Orland Florida. <u>Noriko Yamada, Hiroko Tomoda, Akiko Miki, Rie Tanaka</u>(2015). Problems in Forensic Nursing Recognized by Academic Teaching Staff Members at Japanese Universities. The International Conference on Forensic Nursing Science and Practice, 28-31 Oct 2015. Orland Florida. <u>平成 27 年度：商業誌 6 件筆頭、会議録 2 件、学会発表 5 件</u> 著書：フォレンジック看護. 加納尚美・李節子・家吉望み編. (2016). 医歯薬出版；東京. A4 版 192 頁 <u>山田典子</u>分担執筆：第 3 編 性暴力被害者支援の実践。外傷サーベイランスについて執筆。 <u>山田典子</u> (2016). 高齢者虐待の早期発見に関する体表観察への示唆. 日本フォレンジック看護学会誌 2(2), pp. 49-56. <u>平成 28 年度：資料・他各 1 件、商業誌 10 件筆頭、会議録 6 件、研修講師 2 件、報告書 1 件、学会発表 6 件</u>	
アピールポイント等 支援の届きにくい人・必要な支援を求められない人への看護介入について研究しています。虐待や孤立による孤独死など関心分野です。現在、法医学の先生方と共同研究をしています。 キーワードは、フォレンジック看護、セーフティプロモーション、セーフスクール、スティグマです。 秋田で、様々な研究者や教育現場、住民の方々と繋がりながら、研究で得た成果を実生活に還元していきたいと思います。	

学部・領域 学科	看護学部 臨床看護学領域 母性看護学	
職 名	講師	
氏 名	吉田 倫子	

業績 (H27. 4～H29. 3)

学会発表

- ・ 早期乳児の夜間の睡眠構造に関するアクチグラフとワンチャンネル脳波計による評価. 吉田倫子, 篠原ひとみ, 成田好美, 工藤直子, 兒玉英也. 第 30 回秋田県母性衛生学会学術集会. 2015.
- ・ アクチグラフで評価した早期乳児の睡眠と成長・発達との関係. 吉田倫子, 篠原ひとみ, 成田好美, 工藤直子, 兒玉英也. 第 58 回日本母性衛生学会学術集会 (コメディカル愛育賞受賞), 2017.

研究論文

- ・ Assessment of nocturnal sleep architecture by actigraphy and one-channel electroencephalography in early infancy. Yoshida M, Shinohara H, Kodama H. Early Human Development. 91: 519-526, 2015.
- ・ 助産師学生の分娩介助技術の習得過程. 工藤直子, 篠原ひとみ, 成田好美, 吉田倫子, 兒玉英也. 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要. 23(2):201-209, 2015
- ・ 周産期の母親の身体・心理・社会的イベントと児への愛着形成プロセスとの関係. 伊藤奏瑛, 吉田倫子. 秋田県母性衛生学会雑誌. 29:22-27, 2016
- ・ 地域の思春期相談活動に対する助産師の考えや活動の実際と課題. 木村菜津子, 吉田倫子. 秋田県母性衛生学会雑誌. 30:12-17, 2017
- ・ マタニティマークの使用と妊婦の意識や行動との関係. 川村真織, 吉田倫子. 秋田県母性衛生学会雑誌. 30:23-27, 2017

その他

- ・ 平成 26～29 年度 科学研究費基盤研究 (C)「乳児の睡眠構造の発達を促す光環境の検証」
- ・ 平成 28 年 10 月 秋田大学公開講座 講師 看護・リハビリテーションの専門家による乳幼児期の子育て講座「母乳と睡眠からみた子育て」

アピールポイント等

乳児の五感は研ぎ澄まされており、例えば、味覚は大人の 2 倍の識別能力があり、嗅覚については、母親の母乳の匂いを嗅ぎ分けることができるほど敏感であるといわれています。私はこのような乳児の能力に驚き、魅了されてこれまで研究を行ってきました。乳児のテーマでは、最近では睡眠や発達をみてきましたが、最も興味を持って臨んでいるものは、乳児の哺乳行動と乳腺炎をテーマとした研究です。今後もさらに科学的エビデンスを探っていくことで、母親自身による早期発見と予防を実現する方法論を確立したいと思っています。

Taste of milk from inflamed breasts of breastfeeding mothers with mastitis evaluated using a taste sensor.

Yoshida M, Shinohara H, Kodama H, Sugiyama T, Kumagai M, Muto H. Breastfeeding Medicine. 9(2): 92-97, 2014.

学部・領域学科	看護学部 看護学科 成人看護学
職 名	助手
氏 名	渡部 加奈子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 【学会発表】 A大学成人看護学実習における看護技術経験の実態～3年間の経時的推移～、 齋藤貴子、荻原麻紀、新田純子、谷地和加子、磯崎富美子、渡部加奈子、北林真美、 宮堀真澄、 第36回日本看護科学学会学術集会、平成28年12月（示説） 【研修報告】 平成28年度 日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学紀要 「看護理論の評価」抄読会報告（実践報告） A大学成人看護学実習における看護経験の経時的推移（実践報告） 【地域貢献】 赤十字地域交流センター 公開講座担当	
アピールポイント等 がんの実父を看護師として勤務する病院で看取った自身の体験から、がんの実父母を勤務する病院で亡くした看護師は思いも含めてどのような体験をしているか、その体験がどのようなプロセスをたどっているのかを明らかにしたいと考えるようになった。現在、がんの実父母を勤務する病院で亡くした看護師の体験のプロセスを明らかにすることを目的に、研究に取り組んでいる。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 公衆衛生看護学・在宅看護論
職 名	助教
氏 名	渡邊 正樹
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 【研究論文】 （研究報告）高次脳機能障害者の生活を共にするきょうだいへの影響に関する研究－現状と看護の方向性－ 共著・査読あり 日本農村医学会雑誌 第65巻第1号 2016年5月 【発表】 1. 上記の論文について日本農村医学会学術集会 2016年10月 2. 訪問看護ステーション実習における教育の質保証を図るための取り組み－実習記録用紙の検討－ 共著・査読あり 日本赤十字看護学会 2017年6月 【地域貢献】 平成28年度 秋田県看護協会看護学会委員 平成29年度 秋田県看護協会看護学会委員長	
アピールポイント等 キーワード：在宅、障害、家族看護、訪問看護 現在、研究として取り組みたいと考えていることは、「在宅で障害を持ちながら生活する療養者とその家族」についてです。 特に訪問看護の対象となる療養者とその家族は、それぞれどのような支援や制度を求めているのか1つひとつ追究できればと思っています。	

学部・領域学科	看護学部 看護学科 母性看護学
職 名	助教
氏 名	渡邊 美奈子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 1）研究論文（「報告」として掲載） <u>渡邊美奈子</u>，猿田了子，柳生文宏，加藤尚美．（2015）. 秋田県における助産師の専門的自律について. 秋田県母性衛生学会雑誌 29, 28-31. 2）平成 24～26 年度科学研究費助成 基盤研究（C）研究結果報告書報告書 加藤尚美、猿田了子、渡邊香、柳生文宏、<u>渡邊美奈子</u>. (2015) 「助産師の専門的自律性測定尺度の開発」 3）学会発表（一部抜粋） ・第 11 回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会（共著者）「The Relationship of Midwifery's Autonomy with Technical and Financial Independence in the Hospital」 (2015) ・第 57 回日本母性衛生学会学術集会・示説発表（筆頭発表者）「妊娠末期の夜間睡眠時の酸素飽和度と自覚的睡眠の質および精神健康度との関連」 （2016） ・第 31 回 ICM 会議・助産学術集会（共著者）「Development of Professional Autonomy Scale of Midwife in Japanese hospital」 (2017) 4）その他 ・秋田県性教育講座講師 ・秋田県助産師会研修会企画委員	
アピールポイント等 主に妊婦の睡眠に関する研究を行っています。修士論文では、妊娠中期の正常妊婦における睡眠時無呼吸に焦点を当て、パルスオキシメータ・自律神経活動の測定を実施し、論文執筆しました。現在、博士論文および科研費助成金（若手 B）の研究として、①妊娠後期の睡眠状態と呼吸状態の観察を目的にパルスオキシメータ・アクチグラフの測定、②妊娠初期～末期の正常妊婦の客観的・主観的な睡眠の質の経時的変化を明らかにする目的で研究を遂行しています。	

学部・領域 学科	介護福祉学科	
職 名	教授	
氏 名	井上 善行	
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）		
・著書，論文等		
(分担執筆)井上善行．(2016)．第1部介護の基本第5章介護を必要とする人の理解．『介護福祉士実務者研修テキスト』総括編集委員会(編)，介護福祉士資格取得のための実務者研修テキスト第2巻介護の基本Ⅰ・Ⅱ(pp.89-109)．全国社会福祉協議会． (分担執筆)井上善行．(2016)．第1部(第1章人間の成長と発達，第2章老年期の発達，第3章老化にともなう心身の変化と日常生活)，第3部(第1章障害の基礎的理解，第2章障害のある人の心理，第3章障害者介護の視点)，第4部(第3章食事に関連したところとからだのしくみ，第4章排泄に関連したところとからだのしくみ)．日本介護福祉士養成施設協会(編)，介護福祉士養成テキスト第5巻発達と老化の理解／認知症の理解／障害の理解／ところとからだのしくみ(pp.3-42，pp.127-148，pp.234-291)．法律文化社． (分担執筆)井上善行．(2017)．第4章利用者の理解と援助関係の基本．社会福祉学習双書編集委員会(編)，社会福祉学習双書第15巻介護概論(pp.69-84)．全国社会福祉協議会． (共著)古川和稔，井上善行，小平めぐみ，野村晴美，藤尾祐子．(2015)．特別養護老人ホームにおけるチームアプローチ実践の自己認識—学際的チームアプローチ実践評価尺度の検討とバーンアウトとの関連—．自立支援介護学，8(2)，132-139． (共著)泉洋枝，井上善行，小平めぐみ．(2015)．在宅要介護高齢者の口腔ケアに関するケアマネジャーの意識に関する研究．自立支援介護学，8(2)，160-167． (共著)山本君子，竹内孝仁，井上善行，佐藤智子，佐藤ユキ子，天野雅美．(2016a)．介護職の“その人らしさ”の捉え方に関する調査．自立支援介護学，9(2)，120-127． (共著)山本君子，竹内孝仁，井上善行，佐藤智子，佐藤ユキ子，天野雅美．(2016b)．介護職が捉える“その人らしさ”の概念構成．自立支援介護学，10(1)，6-15．		
・学会活動等		
日本ケアマネジメント学会『ケアマネジメント学』査読委員		
日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャーの会副会長		
日本自立支援介護・パワーリハ学会『自立支援介護学』査読委員		
介護福祉士国家試験試験委員		
アピールポイント等		
専門領域：ソーシャルワーク方法論（高齢者および障害者を対象としたケアマネジメント），介護福祉原理論（高齢者介護における自立支援）		

学部・領域 学科	介護福祉学科	
職 名	助教	
氏 名	及川 真一	

【研究発表】

- 1) こども環境学会 2015 年大会 2015 年 4 月 25 日～26 日
「こどもサマーキャンプ in 秋田 ～いのちの大切さを伝える防災教育プログラム～」示説発表
- 2) 日本災害看護学会第 17 回年次大会 交流集会Ⅳ 2015 年 8 月 8 日
「大学が地域防災力向上の拠点となるために―学生による防災キャンプ活動報告―」
- 3) 第 5 回日本体育学会東北地域大会・第 23 回宮城体育学会 2015 年 12 月 5 日（土）
「防災教育が大学生の自己効力感および社会人基礎力にはたす役割」一般演題（口演発表）
- 4) 日本災害看護学会 第 18 回年次大会 2016 年 8 月 26 日（金）～27 日（土）
「防災キャンプ経験が大学生の社会人基礎力に及ぼす影響」一般演題（口演発表）
- 5) 日本災害看護学会 第 18 回年次大会 2016 年 8 月 26 日（金）～27 日（土）
「災害支援および研究者の介入 ～野外避難の人々に寄り添って～」一般演題（示説発表）
- 6) 日本災害看護学会 第 18 回年次大会 2016 年 8 月 26 日（金）～27 日（土）
「2015 年防災キャンプ報告」交流集会
- 7) 第 75 回 日本公衆衛生学会 2016 年 10 月 26 日（水）～28 日（金）
「高齢者の体表観察スケール「くらべて話すけ～る」の開発」一般演題（示説発表）
- 8) 第 36 回 日本看護科学学会学術集会 2016 年 12 月 10 日（土）～11 日（日）
「高齢者の体表観察スケール「くらべて話すけ～る」を用いた観察と記録のとり方」交流集会

【研究論文】

- 1) 及川真一, & 仲野隆士. (2016). 防災キャンプが大学生の防災能力に及ぼす影響. 仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集, 17, 89-100.

【著書】

- 1) 単著 及川真一「防災キャンプのすすめ」2016 年 9 月 秋田魁新報社

【地域貢献】

秋田県総合防災課、秋田県国際交流協会、秋田県防災士会等で防災研修会講師を務める。秋田魁新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新聞、ABS ラジオ、NHK、秋田朝日放送、あきたタウン情報などの各種メディアで「アウトドア防災」について掲載・出演する。

アピールポイント等

「地域社会と密接に連携した実学教育」を行っています。主な活動としては、東日本大震災復興支援活動や防災教育「防災キャンプ」を企画運営しています。

学部・領域学科	介護福祉学科
職名	教授
氏名	高橋 美岐子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） <著書等> ・長谷川洋昭他（編）：災害福祉論、青踏社、2015、pp111～121 ・太田貞司（監）：生活支援の基礎理論Ⅱ、光生館、2015 pp42—46 ・太田貞司（編）：生活支援の実践、光生館、2015 pp109—120 ・「主体性を持った介護福祉士の養成」～アクティブラーニング型授業の展開～、地域ケアリング、Vol. 19No.6. 2017. pp41～47 <地域貢献等> ・講師 「介護職のためのフィジカルアセスメント」 主催：秋田大学地域包括ケア・介護予防研修センター 回数：年3回（県北、中央、県南） 時間：各3時間 ・秋田県介護職員等によるたん吸引等研修 講師 ・介護福祉士国家試験実技試験委員 ・介護福祉士養成施設協会学力評価委員会 ・秋田県介護職員等によるたん吸引等研修実施委員会 副委員長、判定部会委員 アピールポイント等 <研究1> 介護福祉士養成校における「医療的ケア」教育の現状と課題に関する研究 「医療的ケア」教育の実態調査を実施し、その結果から、介護福祉士養成校における「医療的ケア」教育、特に実地研修を中心とした現状と課題を明らかにすることを目的として研究を進めている。 <研究2> 災害介護教育の展開とその意義に関する研究 災害時要援護者への関わりの機会が多い介護職にとって、災害時支援に関する基礎的な学びは重要であると思われるが、介護福祉士養成において「災害介護」教育としての全国的な広がりはない。このことから、本学におけるこれまでの授業展開を紹介すると共に、災害介護の意義について発表し、全国的な広がり動機づけに結びつける。 ・平成29年度：日本介護福祉学会での発表	

学部・領域学科	介護福祉学科
職 名	教授
氏 名	土室 修
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） ・地域福祉の方法論におけるニーズ把握の変遷と現在のあり方 地域福祉サイエンス第3号、地域福祉総合研究センター 2016 ・生活支援の基本となる理念 生活支援の基礎理論Ⅰ 光生館 2015 ・秋田県介護サービス事業所認証評価制度推進委員会委員 ・秋田県社会福祉協議会評議委員 ・秋田県福祉サービス第三者評価調査者 ・秋田県共同募金会配分委員（28 まで） ・秋田県福祉保健人材・研修センター運営委員（～29 まで）	
アピールポイント等 地域では高齢者の福祉問題が多発し、なおかつ深刻化している。要介護状態にならず、長く住み慣れた地域で生活を維持・継続するためにも、地域や問題の状況に合わせた支援体制の構築が喫緊の課題となっている。従来は、公的制度に基いたサービスを提供することで、住民の福祉ニーズを充足してきた。だが現在では、新たな公共、公私協働、地域での支え合いがキーワードになり、公的福祉とコミュニティ型の非営利組織が連携した福祉実践が重視されている。 だが、課題も山積している。埋もれたニーズを浮き彫りにする方法や連携の方法、住民を巻き込んだ展開方法などが、その一例である。これらの諸課題に関心を寄せつつ、研究を進めていく。	

学部・領域学科	介護福祉学科
職 名	准教授
氏 名	藤沢 緑子
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3）	
<社会貢献> ・平成27年9月 秋田県介護福祉士会主催平成27年度介護福祉士実習指導者講習会 担当科目「スーパービジョンの意義と活用及び実習生の理解」 ・平成28年7月 大学コンソーシアムあきた主催高大連携授業 担当科目『おもしろ福祉学～究極の人間援助を考える～』 第2項「社会福祉・介護福祉専門職のしごと」 ・平成28年9月 秋田県介護福祉士会主催平成27年度介護福祉士実習指導者講習会 担当科目「スーパービジョンの意義と活用及び実習生の理解」	
アピールポイント等 <関心のあるテーマ> 1. 摂食・嚥下機能障害への対応 ・摂食・嚥下機能障害に対する多職種連携アプローチ ・介護福祉士の「摂食・嚥下機能障害への支援力」を高める教育のあり方 ・地域における食支援 2. 悲劇を生まない老老介護のあり方	

学部・領域学科	介護福祉学科 障がい者福祉
職 名	教授
氏 名	湊 直司
業績、研究論文、発表、著書、地域貢献等（H27.4～H29.3） 《発表》 ・平成27年日本社会福祉学会東北部会第15回研究大会青森大会 「障がい者就業における職務遂行能力の捉え方の変化」 ―東日本大震災被災地の障がい者雇用の現場から― ・平成28年日本社会福祉学会東北部会第16回研究大会福島大会 「障がい者の求職相談記録から伺われる就労ニーズの傾向」 ―初回相談から就職に向かう相談経過記録の分析― 《研究会》 ・平成24年～現在「被災地におけるケアラーの実態調査研究」：被災地のケアラー研究会 《地域貢献》 ・平成27年～隔月実施「医療と労働・福祉のネットワーク」：精神障害者雇用啓発学習会	
アピールポイント等 ・障がい者福祉現場36年。初めて教員という仕事を生業にしました。社会福祉論・障害者福祉論・障害の理解Ⅱ・災害福祉論・社会福祉概論(看護)を担当します。ことさらに現場主義を強調する気はありません。アカデミズムに対する敬意もあります。しかし現場ネタでしか授業を仕切れない自分がいます。特に災害福祉論では、被災地に住んでいたということでそれをネタにしているという妙なやましさを感じています。 ・障がい者の就労、特に一般就労に取り組んできました。岩手県内の障害者就業・生活支援センターと就労移行支援事業所のネットワーク構築が実績です。この二つの事業は本気で取り組める制度設計だったと思っています。 ・「医療と労働・福祉のネットワーク」と名付けた取り組みをし始めたところでした。企業に対して医療と労働・福祉がタッグを組んで積極的な啓発活動をするというものです。これは平成30年度から精神障害者が雇用率の算定基準に加えられることから生じる雇用率の大幅な上昇に向けた取り組みです。ネットワークとはユーリア・エンゲストロームの提唱するネットワークの進化形です。興味のある方、お話ししましょう。	